

一般社団法人 日本・ドミニカ共和国友好親善協会
平成 28 年度事業計画
(平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日)

平成 28 年度は引き続き、長期的な日本とドミニカ共和国間の「真の友好親善関係」を構築するべく、協会の地盤固めに注力する。これは主に、会員募集、広報活動、組織構築、事業活動の拡大から成る。

I. 会員増加に向けた活動

平成 27 年 11 月 16 日の一般社団法人日本・ドミニカ共和国友好親善協会の設立以来、会員勧誘活動を積極的に行って来なかった経緯もあり、平成 28 年 6 月末現在正会員(年間 1 万円)は 4 人、賛助会員は 1 人(予定)に留まっている。今後は、国内外の幅広い層、特に日本におけるドミニカ共和国への渡航・居住経験者(元 JOCV、ビジネスマン、プロ野球関係者など)や在日ドミニカ共和国人(厚木や埼玉県に集中)を主要ターゲットとして、会員数の増加を図る(第一段階: 正会員 20 名以上を目標)。

次に、日本におけるラテンアメリカ関係者(学術、ビジネスなど)やドミニカ共和国における親日・知日層(日本への滞在・居住経験者、元国費留学生、ビジネス関係者等)をターゲットとする。これは国内の各大学におけるスペイン語・イベロアメリカ学科も含み、これらの教員や学生に対しても正会員・賛助会員への勧誘を行う(第二段階)。

最終的には、ドミニカ共和国やラテンアメリカに対する知識は少なくとも、同地域に対する国際協力の興味や日常生活外の新たな知識や刺激を求めている“一般層”に対し、当協会の活動に賛同してもらい、正会員、賛助会員になっていただく。

なお、「法人会員」は、ドミニカ共和国との取引がある日系企業・在日ドミニカ共和国企業を中心に営業活動を行い、計 5 件の法人会員正会員獲得を目指す。

本年度の終了までに、個人正会員 20 名、同賛助会員 20 名、同ヤング会員 20 名、法人正会員・賛助会員の合計で 5 社を目指す。

II. 広報活動

1. 協会ホームページの作成

現在、High Communications の増地氏に依頼し、協会公式ホームページを作成中である。他ラテンアメリカ協会の HP とは異なる「ポップ」且つ重みがあるコンセプトで、写真を多く利用することで閲覧者の視覚に訴えつつ、活動内容も多く載せ、より親しみやすい、楽しさが全面に出た HP を目指している。同 HP 作成には 40 万円＋サーバー

レンタル、ドメイン取得費用（いずれも年間契約：計円）を計上する。7 月上旬に第一版（日本語、スペイン語）を公開し、2016 年 12 月までに随時内容を更新する。その後英語ページの作成も検討する。

2. 協会の信用度向上

ドミニカ共和国及びラテンアメリカに関係がある政治家、著名人、有力企業、マスコミ、他一般社団法人・財団、NPO/NGO、任意団体、各省庁、在京大使館等などから協力を仰ぎ、当協会の「推薦人」及び個人・法人会員になって頂くための営業活動を強化する。これらにより、協会のクレディビリティを向上させ、更なる会員や補助金・協賛金の獲得を目指す。特に（一社）ラテンアメリカ協会に対し、同協会の HP や協会誌「ラテンアメリカ時報」（毎四半期発行）の中で、当協会について取り上げて貰えるよう働き掛ける。

3. 他組織・機関とのコラボレーション

定款で挙げた様々な事業につき、リソース不足を解消すべく、他組織や団体、機関との協業を積極的に進める。まず、「国際協力」の部分で、ドミニカ共和国にランドセルや文房具等を寄付し、子供の教育に関わる任意団体「パラニーニョ」との活動を本格化させる。

パラニーニョでは「一人でも多くの子どもたちがより良い未来を選択出来るよう、教育支援を中心として活動を行う」を理念に掲げ、ドミニカ共和国を中心に活動を行っている。現在は 2016 年 8 月の新学年開始に向けて通学かばんを贈るプロジェクトを立ち上げ、資金調達及び現地での運営準備を行っている。今後はドミニカ共和国と日本の交流を深めるために、定期的なチャリティイベント（コーヒー試飲会・ダンスや絵画での交流など）を行っていく。

なお、パラニーニョの樋木代表（当協会正会員）には当協会の理事（国際協力担当理事）にご就任頂く。

その他、在京ドミニカ共和国大使館と定期的な打合せ（2 ヶ月に一回程度）を行い、協業可能なイベントの可能性を探る。

4. パンフレット等作成

HP 完成後、A4 一枚紙（両面）に収まるものを作成する（150 枚程度）。

III. 事業・活動計画

1. イベント関連

（1）ラテンアメリカカンバザー

本年も、10 月後半に（一社）ラテンアメリカ婦人協会主催の「ラテンアメリカン・チャリティバザー」が行われる。本バザーは在京中南米諸国の大使館が参加し、各国の食品や特産品の販売や観光情報の提供に加え、多くの企業スポンサーが付く大規模イベントである。来訪者も毎年数千人を数え、日本におけるラテンアメリカ関連の最大級のイベントとなっている。昨年度もドミニカ共和国ブースには大勢の一般観客が詰めかけ、コーヒーやラム酒、各種産品を購入した。よって、当協会も人員を提供する他、事前にドミニカ共和国から一定量の産品を購入し、バザーにて販売することにより、活動資金の確保に繋げる（そのためのドミニカ共和国訪問については別途要検討）。

(3) その他

ダンス実演会（ルイス・佐々木氏）、ドミニカ料理試食会（Yudelka Salvador 氏、Julissa Lied 氏）、ドミニカ共和国産品紹介、観光地紹介などの事業を関係者と協議の上、複数回行う。

2. 学術・資料関連

(1) ドミニカ共和国の政治、経済・ビジネス、社会、文化、スポーツに関するニュースを完結に纏め、2 週間毎に HP に掲載する。これは主に現地三大紙（リスティン・ディアリオ、オイ、エル・カリベの各紙）からの情報を主とする。

(2) ドミニカ共和国に関する経済データ（主に中央銀行からの引用）を纏め、毎月毎に HP へ掲載する。

(3) 本年度中に一回、ドミニカ共和国に関する政治経済、歴史、人類学などに関わるトピックについて公開勉強会（講演）を行う。

3. ビジネス関連

(1) 本年度中に「商工会議所担当理事」（仮称）を任命し、両国間の通商・ビジネス活動の援助をするための基盤作りを行う。

(2) 具体的には、ドミニカ共和国と取引及び関係がある本邦企業（VIENT 社石川氏、ジャパンエクスポート・インポート社川代氏、サントリー、イオン、豊田通商、明治産業、茶谷産業、JAL パックなど）及び在日ドミニカ（共）企業・個人事業者（Alberto de la Cruz 氏、水野譲治氏、加藤ダニー氏、Julisa Lied 氏など）を訪問し、本協会の趣旨について説明すると共に、彼らのビジネスプランや問題意識について聴取し、協会としての様な協力・協業が出来るかを探る。

(3) 鈴木代表理事の在ドミニカ共和国日本国大使館勤務時代のコンタクトを中心に、在ドミニカ共和国企業にアプローチし（2012 年 10 月に行われた「対日輸出セミナー」参加企業が中心）、対日貿易に関わるビジネスプランや問題意識について聴取するほか、

本協会の運営につきドミニカ共和国側からの協力を依頼する。特に、ドミニカ共和国・日本商工会議所会頭の Fernando Lama 氏 (Bonanza Dominicana 社長：三菱自動車総代理店) との関係再構築を重視

(4) 毎年 3 月に行われる FOODEX (於幕張メッセ@JETRO ブース) に参加するドミニカ共和国企業をサポートを行う

4. スポーツ関連

(1) 現在コンタクトがある、広島東洋カープ、オリックス・バファローズ、中日ドラゴンズ、横浜 DeNA ベイスターズを中心に、在籍するドミニカ人野球選手への取材を申し込むと同時に、当協会への法人会員加入を促す

(2) ドミニカ人野球選手が在籍する日本体育大学との関係を新たに構築 (ドミンゲス駐日大使に依頼)

(3) ドミニカ人バレーボール選手の受け入れを行っている大学及びプロチームとの関係を構築する (同上)

5. 文化関連

(1) 本邦でドミニカ共和国及び中南米諸国において活動を行っている芸術家や作家、ドミニカ共和国において活動し、今後日本への展開に興味を有する芸術家、作家などとの関係を構築する

(2) (1) に関する組織や任意団体との関係を構築する

(3) まず、Enrique Cerda 氏 (ドミニカ人画家)、Gibert/Vivianne Kieffer 両氏 (在ドミニカ共和国フランス人芸術家) の紹介を当協会 Facebook 及び HP で行う

6. 国際協力関係

(1) 文房具送付プロジェクト

2016 年 8 月の新学期に合わせ、通学かばんを現地に送付予定の任意団体「パラニーニョ」との協業を進める。

(2) 中古グローブ送付プロジェクト

BBA 社の梅原氏による中古野球グローブのドミニカ共和国における配布事業に関し、本邦企業 (特にプロ野球団) や現地企業、政府組織からの協力を得ながら、具体的なプランを作成し事業を行う。

(3) JICA 関係者との協業

ドミニカ共和国に滞在・勤務経験のある外務省職員、JICA 職員、同専門家、元 JOCV 隊員などとの関係を新たに構築し、本邦及びドミニカ共和国における国際協力活動に繋げる。特に、JOCV OB 会との関係構築を重視

(4) 大分大学医学部

1989 年以来 JICA のスキームにより、日本・ドミニカ共和国医療友好センター (CEMADOJA) 及び消化器疾患センターを設立し、医療協力を行っている大分大学医学部森教授及び中山教授との協業を強化する。具体的には、同大学の協力につき、本邦で発表を行う機会を共に探りつつ、同大学が有する NPO 法人 (ドミニカ・ヒューマンサポート) とも協業を行い、ドミニカ共和国国内での協力の可能性も探る

7. 西日本における活動

(1) Yarased Martinez 氏 (神戸芸術工科大学博士課程)、荒木優子氏 (同教授)、杉浦 快氏 (元広島東洋カープアカデミー)、梅原和宏氏 (Umehara & Co 取締役) を中心に、上記 1～6 に関わる活動を西日本 (愛知県以西) 地域にて行って頂く。特に新規会員勧誘やドミニカ共和国の紹介がその活動の中心となる予定である。

(2) 中部日本 (愛知県を中心とする東海・北陸地方) は、木下達生氏 (東邦大学、元中日ドラゴンズ) や住田ワタリ氏 (オリックス・バファローズ勤務) を中心に上記の活動を依頼する。

8. 人脈形成

(1) 本年度中に一度以上、別添リストの政治家、組織、団体、企業と会合の機会を設け、両国間の関係発展のための事業開発について、話し合いを行う。

IV. 組織

1. 小委員会

(1) 現在、理事会の下に、①調査・研究、②通商・観光、③文化・スポーツ、④国際協力、⑤西日本の 5 つから成る (名称はいずれも仮称) 「小委員会 (Sub-Comités)」を立ち上げ、各委員会の長を理事が務める体制を整えるべく調整を行っている。

(2) 設立時定款に定めた組織体制については、平成 28 年度末を目標として、総会・理事会での協議を経て、徐々に完成させていくものとする。

以 上